

高崎市 ホタル元気に育って 児童ら江田川に幼虫放流



ホタルの幼虫を小さな紙コップに入れて川に放流する子どもたち

高崎市山崎町の佳良らでつくる自然保護団体「山崎エコアップ会」（厚地哲夫会長）は22日、同所のホタルの里「山崎ホタルピア」内を流れる江田川の源流にゲンジホタルの幼虫を放流した。5月ごろには乱舞が楽しめそうだ。幼虫は同会会員や住民、楳北小（渡島茂明校長、696人）の3年生が育てた4、5千匹。同日は児童と保護者、

佳民らが集まり、それぞれ江田川にホタルを放った。小さな紙コップに幼虫を入れて川に放流した同校3年の田富暹泰さん(9)は「幼虫と成虫では体の形が全然違うのでどう変わるのか不思議に思いながら育てた。大きくなってきれいに光ってほしい」と成長を心待ちにしていた。同会は1998年から毎年、ホタルを放流している。

同校でホタルの成育について指導している同会事務局長の佐々本弘さん(71)「同市吉村町」は「成虫になるのは1割にも満たない。ホタルを育てることで環境を守る気持ちも育てたい」。厚地会長(62)は「囲囲を木に囲まれているので人工の光が入りにくく、ホタルとの距離も近い。たくさんの人に目に来てほしい」と話した。